社団法人　工学院大学　校友会

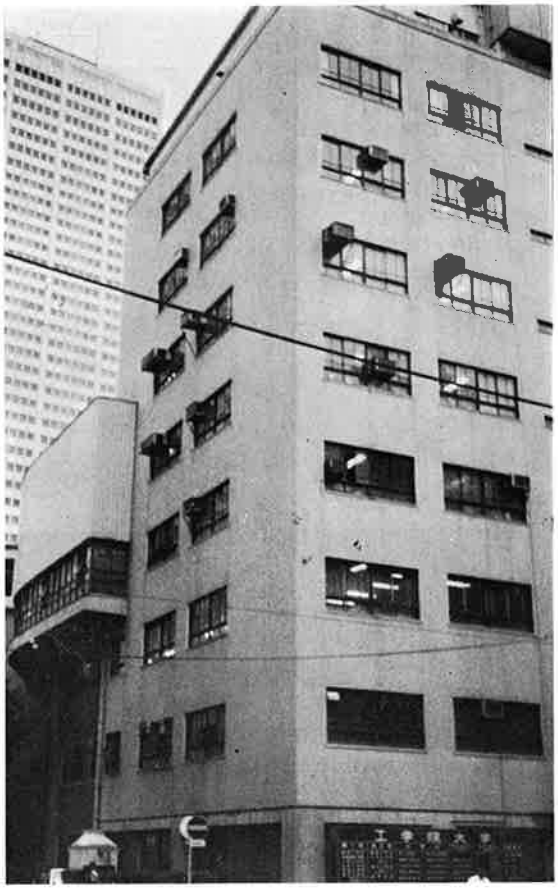
第103号

校友会報

30巻2号

昭和57年11月

南館前方より旧校舎新校舎方面を望む



新校舎前方より旧校舎南館方面を望む
（後方は京王プラザ）

明和の土建機

新開発

振動ローラ

ハンドガイド

MRA－85型．0.85t
MRA－75型．0.75t
MRA－65型．0.65t
上下回転式ハンドル
油圧式

●サイド転圧可能
●ステアリング軽快
MVR－30型．3.0t
MVR－26型．2.6t
MVR－12型．1.2t

タイヤ鉄輪 コンバインドローラ

アスファルト舗装最適

センターピン方式

MUC－40型．4t
（前鉄輪・後タイヤ）
MUS－40W型．4t
（前後共鉄輪）

バイブロランマー

ベルト掛け式
RA－120kg
RA－ 80kg
RA－ 60kg

タンパランマー

RT・75型
エンジン直結式
オイル自動循環式

カッター コンクリート

MC－10型
MC－12型
MC－22型
MC－30型

バイブロプレート

修理・整形
舗装 P －9型
舗装 P －8型
VP－8型
VP－7型
KP－6型

社長 月原 貢（機58）
昭和43年春 勲四等旭日章
昭和53年秋 紺綬褒章

（カタログ進呈）

株式会社
明和製作所
川口市青木1丁目18－2 〒332
本社・工場 Tel. (0482)代表(51)4525～9
大阪営業所 Tel. (06) 961－0747～8
福岡営業所 Tel. (092)411－0878・4991
広島営業所 Tel. (0822)93－3977(代)・3758
名古屋営業所 Tel. (052)361－5285～6
仙台営業所 Tel. (0222)96－0235～7
札幌営業所 Tel. (011)822－0064

中央公園大噴水

もくじ

○まちがった答のない問題……伊藤 鄭爾…2
○校友会に期待するもの……平川 紀一…3
○本学の大学院について……山口章三郎…4
○ホロニックス・パス……柿沼 敏雄…5
○校友の皆様へ……正木 三省…6
○世界の俳句……松尾 靖秋…7
○同窓会だより
・日本に於て生産される「小型車」はなぜ1,500ドルも安いのか……山崎 隆一…8
・創立百年の年輪を数年後に迎えて母校に望む……内山 太…8
・建築学科同窓会だより……南迫 哲也…9
・応化会健全発展のために……富所 良二…9
・高校同窓会だより……足立 剛一…10
・学園将来計画について……南雲 芳夫…11
○十年一昔……南 喜八郎…12
○近況報告
・学校法人……13
・大 学……13
・高等学校……15
・専門学校……15
○校友会だより……16
○支部だより……17
○昭和58年度大学入試日程決まる……18
○昭和57年度支部長会議報告……落合 康男…19
○工学院大学校友会支部一覧表……20
○信頼性品質管理について……中野 善衛…21
○昭和58年度高等学校入学考査案内……21
○かけあし一年のなげき……榎本 忠良…22
○役員役務分担表……23

まちがった答のない問題

学長　伊藤鄭爾

小学生でもできる算数の問題である。ただし正解のない問題である。

（問題）

(a)　3＋2×1.2＝27

(b)　3＋2×1.2＝5.6

どちらの答もまちがっているが、これに10点満点で採点して、その点にした理由を述べよ。

ついでながら述べておくと　(a)の回答では1.2を12と勘違いした数字があげられている。つまり小数点を見おとした形になっている。(b)の回答は1.2を1.3と勘違いして計算した数字になっている。

実をいうと私は、この種の問題を大学院生に出した。ほとんど異口同音に彼等が言ったことは「今までの教育でよくうけてきたように○×式で答えれば実に簡単で、両方とも0点である。しかしよく考えてみるとむつかしい問題だ」というのである。「誰に相談してもよい、どの本を参考にしてもよい」と言っておいたけれど、そんなことをしてみても大して足しにはならない。しかし答は書かなければならないし、その理由も書かなければならない。

そこでさまざまな採点がでてきた。両方とも0点にする者、4点、6点や2点、8点にふりわける者などさまざまであった。しかしこの出題の最大のポイントは、何点にしてもよいから、いかによく考えてあり、それが第三者に説得力をもつかという事にある。となると問題は短く簡単なようだけれど、考えれば考えるほどむつかしくなる。そして私としての評価の基準は、いかに論理的によく考えてあるかなのである。

重ねていうけれど正解はないというのが、私の立場である。答案用紙をうけとった後で、私はひとつの回答理由を述べた。それは次のようなものである。

正しい答えは5.4である。これは暗算でもできる。もし君たちが社長か構造計算屋になったとし、部下から上記の数字をうけとった時、どちらが正しい数字との違いが大きいかを考えたとする。(a)では21.6で、(b)では0.2である。両者の違いの数字は10.8倍である。もしこれがお金の数字だったとすると　(a)は21万6千円まちがえて(b)は2千円まちがえたことになる。だから計算を違えた点では同じだけれど影響はまるで違う。だから私がもし社長だったら　(a)の間違いは許せないものなのであると。

もしこの議論において、あえて正しいか否かを付け加えたいというのなら、その議論で勝つことであって、点を何点にしたかという事ではないのである。学力を測るのに偏差値を用いることがよく行なわれるが、この問題では偏差値を考えることは、およそ無意味であるが、教育や実務の観点では重要であることを示している。

校友会に期待するもの

学校法人 工学院大学
常務理事　平川紀一

今年は学園創立以来95周年になる。100周年を間近かに控えて、ここで乾坤一擲、大飛躍を目指すべき時であろう。

本学園は明治20年の創立以来、官学的色彩の極めて濃厚な学校であった。初代の特選管理長は帝国大学総長であったが、校長以下教育の任に当たった人々も、殆どが当時の工科大学校の教官であった。このような傾向は今も続いており、教授の過半数が国公立大学の出身者で占められている。

このことは学園を地味で堅実なものたらしめる上ではプラスに働いたかも知れぬが、親方日の丸意識を脱却せず、母校意識を稀薄ならしめている点ではマイナスに働いたといえよう。

私学は自らの必要とする費用を、自らの力で稼ぎ出さなければならない。私学の財源の大宗を占めるのは学費であるが、そのほか国や自治体からの補助金、在校生の父母や校友などからの寄付金、収益事業からの収益などがある。本学園の場合、目下の所収益事業は殆ど無いに等しく、寄付金については在校生の父母からのものが恒常的かつ大部分である。国の補助金は経常的支出の約¼を占めるまでに年々著増してきたが、国の財政硬直化のため、今後は減額を余儀なくされそうである。学費についても、可処分所得の実質減が生じてきていることを考えると、その値上げはできるだけ避けるべきであろう。しかし日進月歩する科学技術の水準を保ち、教育や研究の質的向上を計るには、多額の費用を要することは言うを俟たない。

学園が大学を中心に運営されるようになった昭和24年から、以来30余年になるが、この間学園の社会的評価は必ずしも高まらなかった。人によっては長期低落傾向が続いているとさえ極言する。確かに明治20年に工手学校として発足した当時は、短期速成の各種学校であったにも拘わらず、築地の工手学校の名は天下に鳴り響いていた。

それに比べると、現在の学園は形式は整備されたとはいえ、多数の類似諸学校の間に埋没して、いま一つパッとしない。

かつて開設後間もない明治29年の失火に築地校舎が全焼した時、また大正12年の関東大震災で角筈の現校地に移転を余儀なくされた時、また昭和20年に空襲で大きな災害を受けた時、廃校の危機を乗り切り、新たな発展の契機たらしめたのは、校友の熱意と拠金によるところが大きかった。

学園は創立以来95周年を過ぎ、100周年を目捷の間に控えている。この機会に一大飛躍を遂げ、創立時の高い評価を超える学園とするには、物心両面に亘る校友の熱烈な母校愛が、大きな鍵となろう。学園の教学面を充実させる為に、何卒一臂の力をお貸し願いたい。

これまで学園は国立大学の出身者が中心になって運営に当たってきたこともあって、校友に対する配慮は必ずしも十分であったとはいえなかった。私共はこの点の反省に立って教職員、在校生（及びその父母）、校友が三位一体となって、よりよき学園の創出に協力する態勢を整えたい。

校友は全国に3万余を数え、産業界の中枢を占めている人も少なくない。これらの人々の愛校心を振い立たせるには、学園側の働きかけも大事であろうが、それ以上に校友会自身が校友にとって魅力のある存在でなければなるまい。

校友会は12年間の長いトンネルを抜け出して、昭和54年に合同が成立した。この新生校友会に、校友中の最もよき部分が結集し、母校の発展に私心のない協力を賜わるよう、切にお願いする次第である。（1982. 11. 2）

本学の大学院について

大学院運営委員長　山口 章三郎

日本の近代文明の利器の海外への進出は、諸外国の脅威の的となっており、同時にこれらの利器の誕生は欧米人によるもので、日本はその育成の妙を発揮したに過ぎないという批判も酷しいことは、英国首相サッチャー夫人の言をまつまでもない。今後日本が世界の中で真に敬愛される民族となるためには、科学技術による新しい製品の育成とともに、その誕生にも大きな役割を果すようになることが肝要であろう。

そのためには、模倣改善の技術から独創開発の技術とその基礎学術とが必要とされ、大学教育においては、特に研究に重点をおく大学院の果す役割を見逃すことが出来ない。

さてわが工学院大学の大学院はどのような状態にあるのであろうか。

本学大学院が設置されたのは、修士課程が昭和39年、博士課程が昭和41年で、当時新制大学工学部（国、公、私立とも）における機械、工業化学、電気、建築の四専攻をもつ博士課程大学院設置認可の第一号に相当し、旧制大学の工学部と並んだものとして、本学の著しい躍進振りが注目された。

大学院設置のためには大学の基準を上回る教育研究施設と十分な教授研究陣容とが不可欠の条件であり、八王子に広い校地と新設備を増設することは当時大学設置審議委員会の委員でもあった野口尚一学長と宗宮尚行教授（学士院会員）の努力によった事はいうまでもない。

日本工学会の「我が国工学百年の歩み」の年表の中で、工業に関る私学の創立が記載される唯一のものとして工手学校が挙げられ、火災で焼けた明治29年にはその復興に御下賜金まで賜った輝かしい歴史をもつ本学園が、その後大学工学部を設置した早大、慶大、日大に先んじられていたのが、この博士課程大学院設置によって、やっとその遅れを取り戻したという感も深い。

このように一応骨格が出来た本大学も、その後その肉付を果すべく新五ヶ年計画が樹てられ、その第一歩として八王子校地に化学棟500坪が建築され、ついで機械、電気、建築に各500坪、高校敷地内分の代替500坪計2000坪の研究実験棟増築予定のところ、学生騒動時代に入り中断され、十余年経過の今日までも放置されていることは残念なことである。

しかしその間、設備不十分ながらも大学院の果した業績は以下の通りである。

表1　工学院大学大学院修了者、在学生一覧表（1982-10）

課程別＼専攻別		機械	工業化学	電気	建築	計
修士課程修了者		97	82	122	138	439
博士課程	単位修得者	13	6	16	2	37
	学位取得者	4	2	13 (4)	0	19
在学生	修士課程	7	5	6	26	44
	博士課程	—	1	4	—	5

（　）は課程博士

博士の学位は、5ヶ年の学習課程と所要単位の修得と学位論文合格とを条件とする課程博士と、提出論文と学科試験との合格を条件とする論文博士とがある。しかし論文博士を授与するには、一人以上の課程博士を誕生させることが必要条件となっている。本大学院では昭和51年奥野治雄教授指導による課程博士が誕生し、以後表に示すような修了者および工学博士19名を出し本学または他大学の卒業生からの論文博士も6名を輩出している。

博士の学位は最終の目標ではなく、研究者にとって一つの目標で、この目標につられながら自ら研究能力が高められ成果も挙るもので、一つの一里塚であることはいうまでもない。しかし今後本学園出身者で研究に携っている方で、その成果が出た場合、それを検討し文献化する手段としても、本大学院を利用して学位論文化されることが多くなることを期待し、併せて本学の社会への貢献度が顕著になることを切望して已みません。

付記：本大学院の歴代の運営委員長は、宗宮尚行、大柴文雄、吉沢武男、山口章三郎の各教授で、昭和56年度の本大学院への文部省からの経常費補助金は4,972万円である。

ホロニック・パス

電気工学科主任教授　柿沼 敏雄

話はいささか旧聞に属するが、2年ほど前に故大平総理の政策研究会の一グループが「科学技術の史的展開」という題名の報告を出している。私はたまたま義兄が同グループの議長をしていた関係で、それを読んでみたことがある。内容を一口でいえば、現代において「科学技術の停滞」といわれているものは、巨大科学・巨大施設化に代表されるハード・パス（いわゆる人工の途）や、原子論に代表されるアトミズム（いわゆる要素還元主義）の行きづまりを示すものである。しかしこれからの新しい途は全体と個との関係を重視してその調和を図り、ハードとソフトの調和のとれたホロニックなものでなければならないとしている。このような途をホロニック・パス（より正確にはホロニック・フレキシブル・パス）と名づけている。ここに出てくるホロン（holon）という新しい言葉は全体を表わす hol と、個を表わす on とが組合わされてできた言葉であり、連帯性をもった個を意味している。出された報告は、ざっとこのようなものである。私はこの新しい立場は私の専門とする科学技術だけでなく、方法論的には人間社会における現象一社会的、政治的、経済的現象のさまざまなレベルで適用されうるものと考えて興味をもっている。

大学の活性化の方法はいろいろ考えられる。アメリカの大学にみられるような競争原理の導入とか、産業界とのいわゆる産学協同とか挙げればきりのないところであろう。ここで一例をあげてみれば、本学は新宿という人工的そのものの街の真中にあり、一方八王子は最近かなり市街化されはしたものの、まだ田園的な色彩が残っている。この二つの立地をうまく活用していくことは、人工と自然との調和をはかるというまさにホロニックなものではないであろうか。この時に真に要求されるのは、建物などのハードではなくて、教育をいかに展開していくかのソフトではないかと考えている。また別の例を挙げれば、大学は地域社会と無縁ではない。しかし本学が新宿という地域社会に何を貢献してきたか、また逆に新宿が本学に何かの期待をしてきたか、十分考えてみることも必要であろう。これも大学と地域社会との連けい調和という点では、ホロニックそのものであると考えている。

このように私はホロニック・パスの考えを楽しんでいるのである。とかくソフトというとすぐコンピュータのソフトぐらいしか頭に浮ばないのが技術者の悲しさであるかもしれないが、政治にしろ経済にしろそこにあるのはいわゆるソフトなのではないだろうかと考えている。いま本学で真に大切なものもソフトであるというと言い過ぎであろうか。

—— × × ——

第25回工学院大学研究発表講演ならびに学内展示会

下記のように行われました。

(1)　講演会（機械、生産、化学、電気、電子、建築、関係）
　日時　10月31日（日）13時〜16時30分
　場所　新宿校舎4階5階各教室

(2)　学内展示会（学園祭）
　新宿校舎　11月21、22、23日
　八王子校舎　10月31、11月1、2日

校友の皆様へ

建築学科主任教授　正　木　三　省

今年も秋が深まってまいりましたが、校友の皆様には各方面でいろいろと御活躍のことと思います。

大学の建築学科も今年で創設27年、その母体となった短期大学部建築科の創設からはちょうど30年になりました。私はさらに、そのまた母体のような高等学校建設科の創設の時から工学院にお世話になっているので、すでに34年になってしまいました。

思えばいろいろな事がありました。しかし、大勢としては時勢にも恵まれて、大きな発展をとげてきたことはご同慶の至りです。

大学建築学科の近況については、昨年の校友会報で山下前主任教授がかなり詳しくお知らせしました。

要するに、建築学科は少なくも世間一般の認識よりずっと充実しており、高いレベルにあると思われます。一部はくり返しになりますが、在学生、卒業生は内外の設計競技に何回となく上位入選したりしており、昨年はとくに、大学院生の作品がポーランドで行われた国際建築家協会主催の世界学生建築設計コンクールで入選しました。世界288校参加のうちで、日本からの入選は本学、ほか1校であり、この事からしても本学建築学科は国際的レベルに達したと思われます。

また、環境・設備系分野の太陽熱利用の研究などは、学会でも先端を行く研究として内外から強く注目されており、時流にも乗っているので、教授や学生はテレビにも何回か出たりしていました。

その他、専門分野などの関係でこれほどは目立たないものの各分野での評価は高く、大学院も早くから博士課程までも備え、各教員は研究に教育に、また研究としての実際的活動などに大いに活躍しております。

卒業生の皆様の活躍もめざましく、広く各方面で立派な実績を上げておられるのは、皆様もご承知のとおりです。

しかし、入試などについての本学の評価はあまり高くないのは残念なことです。これは本学が世間一般に知名度が低く、実態の認識も不充分な事などが大きな原因だと思われます。

学園は優秀な卒業生を世に送り出すことが大きな目標ですから、素質のすぐれた学生を入学させなければならないわけです。そのためには、私たちはまず、学園の他の学科や学校の方々との間の理解を深め、一丸となっての長い努力が必要で大学名変更問題なども含めて、本学のイメージアップをはからなければならないと思われます。

また、校友の皆様には母校に誇りを持って本学の実態や特長を人々に説いて認識を広めていただき、優秀な学生がより多く本学に集まるようにご支援をいただきたいと思います。

学園の再開発、拡充の計画もだんだんに具体化しようとしており、これは失敗があると命運にかかわるような大事業と思われます。

古い事になりますが、大学も経理の面では高校などに頼っていた時代もかなり長かったようであり、また、学園も経営が苦しく、かなりの土地を二度も売らざるを得なかったような時代を経てきました。現在の学園の大部分の方々には、そういう苦しい時代の情勢を理解するのは無理でしょうが、時流はむしろ昔のようなきびしい方向に向いているように思われます。

学園の将来像はなるべく高く望むべきだとは思いますが、私たち苦しい時代をじっくりと体験してきた者は、現在は比較的には少数になったものの、「とにかくより堅実に」というような願いは切なるものがあるようです。

校友の皆様には、母校の重大な時機にあたり一層のご支援をお願いし、あわせて皆様のご健康を祈っております。

世界の俳句

一般教育部 教授　松　尾　靖　秋

いささか手前味噌の話で恐縮だが、私の専攻と関係のあることでもあるので、いま世界的な規模で広がりつつある俳句についていささかその見聞したところを述べてみたい。ただ、その詳細については綜合誌「俳句」の昭和56年7月号に「海外の俳句事情」として、また今年9月号に「俳句における国際性」として発表したので、あるいはそうした方面に関心のある方の眼にはふれたかもしれないので、いささか二番煎じということにもなり、また紙幅の制限もあって、わずかにその片鱗を述べるしかないが、御諒承願いたい。

私がソ連はじめ欧米の日本文学研究状況の調査のために本学からはじめて出張したのは昭和41年のことで、その後、公私あわせて5回ほど海外に出かけたが、その間日本文学の研究や翻訳には格段の進展が見られたという事実がある。それはもちろん国際社会における日本の国力の評価と決して無縁ではあるまい。そうした背景のもとで、最も日本的であり、世界にも類のない短詩型の俳句が、各国の人々の興味をひくところとなった。それはまず翻訳・研究・創作という形で現われるが、ここでは特に創作の面についてふれてみよう。

まず第一にとりあげられるのは西ドイツである。ドイツの詩に俳句が影響を及ぼすようになったのは19世紀末のことで、有名な詩人リルケも俳句的手法をその詩の中にとりいれたといわれている。1940年代になると、さまざまの都市で俳句のグループが生まれ、創作活動も盛んとなった。いまウイーンに住む高齢の女流ハイク作者ボードマスホフは、見事な俳画を随所に挿入した堂々たる本格的な句集を出しているし、ミュンヘンに住むG・クリンゲは、日本訳名「闇夜の鹿」や「雨いとし」と題する句集を出し、つい先日私の手許に届いた"Im Kreis des Jahres"は毎ページにカラー写真を入れた、まことにぜいたくな豪華な句集である。いまドイツの各地には水原秋桜子の句碑が22基もあるから驚きである。句碑といえば、ロンドンの王室植物園キューガーデンには虚子の句碑がある。

次に、オランダでは、古く俳句の芽生えがあった。170年前長崎のカピタンであったヘンドリック・ズーフが「春風やあまこまはしる帆かけぶね」の句を作ったことが1816年（文化13年）の、随斎成美の序をもつ「四海句双紙」に見える。「あまこま」というのは琉球語で「あちこち」の意である。オランダでは15、6年前からハイクの創作が次第に盛んになり、一昨年はユトレヒトでハイク作者の会が組織された。

フランスでは19世紀の後半、ゴンクールの日本趣味が文壇や画壇の流行となって、歌麿や清長が紹介され、いわゆるジャポニズムが取り入れられた時代に、俳句や短歌もフランス人に親しまれ、更に、1936年に虚子がフランスを訪問した際は、パリでフランス・ハイカイ派の詩人たちと交歓したことが知られている。

いま最も創作ハイクの盛んなのは恐らくアメリカであろう。1963年、アメリカで最初の俳句雑誌「アメリカン・ハイク」が創刊され、いまでは俳句専門の雑誌やハイク・クラブが各地にあり、熱心なハイク・マニアも多い。またハイクが小中学校の教育にも取り入れられている。

また最近では中国や、更に遠くはアフリカのセネガルで、またモロッコでも創作ハイクが始まったという。明治以来もっぱら輸入に仰いでいたわが国の文学が俳句を通じていまや輸出に転じたということは、日本文学のためにまことに慶ばしいこととしなければならない。

同窓会だより

日本に於て生産される「小型車」はなぜ1,500ドルも安いのか
—ある米国経営者のみた日本の企業—

機械工学同窓会評議員
山　崎　隆　一

1982年5月下旬英国バーミンガムで開催された第7回「金属プレス工業国際協議会」に於て、米国金属プレス工業協会（AMSA）のキャディッツ氏は日本の自動車産業の成長要因についてその調査結果を発表し大きな反響を呼んだ。以下はその米国の経営者がとらえた日本の産業構造のあらましである。

日本人は彼等のいうところの4S（整理、整頓、清潔、清掃）は品質を向上させる、と強く信じておりその為に費用をかけている。必要なものを必要な時に必要な数だけ要求する生産方式を達成する為の技術修得にかける献身的な努力は信じられない程のものがある。従業員はよく訓練されており強い愛社精神と高度な動機付けによる積極的な〝やる気〟は、効果的な経営情報と相まってますます強化されている。日本の材料原価は米国より20～30%低く見積られている。日本の労働者に対する報酬はボーナス福利厚生費等直接比較はできないが米国より20%程安いと思われる。

日本の産業構造は競争力を傑出させる為に一致協力しているが、米国にはそのようなものはない。しかもこの努力は大企業の社長から小企業の一般従業員に至るまで広く行われている。具体的な指針は次の如くである。

①資源の効果的利用とあらゆる分野の無駄排除。②高付加価値戦略。③労働原価削減の為の機械化と自動化。④従業員の訓練と品質管理の推進及び生産性の向上。⑤工場団地の開拓と最少在庫量達成の為の技術力。⑥世界的視野に立って長期間の繁栄の為に投資する経営努力。

かくして、日本の競争力優位の特性は、技術の優秀さや科学の大進歩に依存するよりも非常によく管理された労働力によって伝統的技術を徹底的に応用すると共に、まさに数拾年にわたって精進してきた企業や工場のありとあらゆる努力の成果なのである。

この米国の経営者は、日本の産業構造のあり方について、社長から従業員にいたるまで、一致協力して無駄排除を行い、徹底的に原価を削減し続ける日本人の後ろ姿に、米国にはない文化の相異をみいだしたのかも知れない。

（城山工業株式会社取締役社長
㈳日本金属プレス工業協会常務理事国際委員長）

創立百年の年輪を数年後に迎えて母校に望む

電気同窓会会長
内　山　　太

昔、距離というものの実感は、道中宿に泊りながら旅をつづけ幾泊幾里というものさしであったが、交通機関の発達によって、もはや距離の概念は時間というものさしに大きく変化してしまった。

科学技術、特に工学においては、技術の進歩がいちじるしく、産業界での工法、生産効率の改善によって大幅に生産時間の短縮、大量生産というように経済性の向上がはかられてきた。この進歩状態は、年、半年という単位のように思われる。これがエレクトロニクスの進歩にともなって小型化、省エネルギー、省資源、そして高密度、高品質、高能力化が進み、この技術の進歩は、月・週の単位になり研究部門では、1日単位の競争になって来ている。これらの大きな発展は、今までの技術の高密度・高集積化によって成されてきた。しかし、これからの科学は、省資源・省エネルギー、省力化に力点を置くだけでなく、脱石油エネルギーとして水のエネルギー利用バイオエレクトロニクスによる新農水産工業の発生、生体膜開発による医療、化学分野の一大躍進・生産工程の大変革、そして、光エネルギー光源の研究開発に伴う光合成技術の開発研究の進歩により一大産業革命がまた来るのではないかと考えられる。

このような重大な時期に、我が工学院大学は、創立百周年という大きな年輪を迎えんとしている。工学院大学は広く皆様の知恵を求め、また単なる知識にとどまることなく、八王子の再開発を有効かつ合理的に行い、施設、設備の拡充をはかり、学生が、のびのびと自信と誇りを持って勉学できる場を与える。これを礎として、新宿校地を未来科学技術研究推進の拠点となるように再開発を行う。教学においては、単位主義・教科名目主義の講義及び実験・実習を改めて、実のある最新科学技術を教授し、旧態依然とした権威主義を排除し、新らしい科学技術の芽を育成し大樹させる研究教育に力をそそいでもらいたい。

また、事務系職員は、教職員の勤務体制に、ひきずられることなく、職務基本を遵守し、学生、卒業生に適切な奉仕していただきたい。また我々同窓生は、母校で学び得た知恵により社会で活躍していることを感謝し、母校の発展、躍進のために、尊い力をさしのべ協力して下さることをお願い申し上げます。母校創立百周年を間近に控えて21世紀の新らしい科学技術の芽に適応した感応性の強い科学者・研究者を送りだすために、母校の改革と一層の努力を望むしだいです。

同窓会だより

建築学科同窓会だより

建築学科同窓会副会長
南　迫　哲　也

大学建築学科の創設25周年記念祝賀会が一昨年行われてから、同窓会の内部に、いろいろの動きが生まれた。

ひとつは、いままで各個バラバラであった卒業生の意識が、母校を中心としてひとつに纏まり、それを契機として、各研究室毎の会合がもたれるようになったり、また同期会の一泊旅行に出掛けたといったニュースなども、頻繁に聞かれるようになった。中でも創設当時のOBは既に40代から50代に突入する年令に達し、ようやく家庭的にも、社会的にも充実してきたのでありましょうか、学生時代に立ち戻って、何かをやろうという意欲に燃えた篤志家が増えてきた。たまたま創設当時建築教育に情熱を傾けておられた天野太郎先生が難病に罹られて「建築ができなくなってくやしい！」と言っておられるという話を伝え聞き、何らかの形で、皆でおなぐさめできる方法を探そうということになり、そうこうするうちに、いろいろの活動を始めることになった。そしてここに「有機的建築の会」が発足したのであった。顧問として天野太郎先生を仰ぎ、相談役として樋口清、波多江健郎、十代田昭二、武藤章、山崎弘、山下司の各先生方にお願いし、事務局長として南迫があたることになった。「年に4回の講演会などの集まりをもち」「会員自らがよき建築をつくるための研鑽の場とし、あわせて、母校との結びつきを深めることを目的とする」などという会則がつくられた。既に3回の講演会が催されたが、参加者は毎回100～150人という、この種の研究会としては盛況といえるであろう。

さて第2の動きは、祝賀会の折に集められた寄金によって建築学科の学生諸君への奨学基金にしようという動きである。大庭先生を中心として行われたこの記念祝賀会は、教員同窓会から選ばれた委員会によって行われたが、この奨学金の設置によって、ようやくその任を終えることになるのだが、このような動きから、次代の工学院大学を背負う人物が育成されることを心から願ってやまない。本年95周年を迎えるに当り、既に2代目、3代目が在学している今日この頃であるのだから。

広化会健全発展のために

応化会会長
富　所　良　二

会員の皆様お元気でご活躍の事とお慶び申上げます。さて、一昨年の総会を広島での学園校友全国大会に併せて行いましたが、非常に好評を得ました。そこで今期総会も11月27日京都全国大会に併せて行う事は、この5月校友会誌発送時、同封の折込み文書等で御承知と思います。

同窓会だより

一方、京都は、交通至便で魅力ある京都でもあり各地の会員も集り易い地の利を得ております故、同窓さそい合って京都の楽しい一夜を語り合いたいと存じています。なお、別紙案内通り、村上先生から御講演戴くと共に多くの恩師の先生方にご臨席願うべく努力致しています。

悲しいお知らせに触れなければならぬ事は痛恨の極みですが、去る４月28日に高橋史朗教授（享年63才）が急逝され、その悲しみも乾かぬ裡に、本会の産みの親であり、より良き先輩である山根名誉教授（本会名誉会長）が、東京医大病院で薬石効無く、８月12日他界され、８月17日浅草浄閑寺にて大学および関係者多数のご参列を得、葬儀が、しめやかに行われました。応化会としては、筆者が、代表して弔辞を読み哀悼の意を表して参りました。なお、応化会本部では、11月14日に別紙の要領で山珪会と合同で〝故山根先生を偲ぶ会〟を行います。また、全国大会終了後、応化会の懇親会を催しますが、その席で、両先生のご冥福を祈りたく考えていますので、多くのご参加により、生前の思い出話等でご追悼くだされば、さぞ両先生も草葉の蔭でお喜びの事かと思います。

既にご承知かと思いますが、母校も都営地下鉄線の乗入れに関連して新宿校舎の再開発等多くの問題をかかえており、学園将来計画をはじめ多事多端に直面しております。同時に、我が応化会も時代の変遷により従来の会費だけでは財政が成り立たたないばかりか、事業の運営ができない状態です。現実に、今年度の予算不足は如何ともし難く、応化会の将来計画に基づく財政基盤を如何に確立するか、財務委員会で検討を行い、常任委員会等で慎重審議の結果、応化会が、より有意義な会として発展していくためには、受益者負担主義に徹して会費を特別に徴収するしか道なしという結論となりました。会費の徴収策と同時に、全会員へ有効に還元するため、各専門分野のセミナー、特に、未来産業の一つ「バイオテクノロジー」等も、俎上に載せて行かねばならないと思います。また、今年度予算編成も積立金の一時借入でないと収支の調整ができません。総会ではこの様な多くの諸問題を合議でご検討戴き、応化会の益々の発展のために、ご批判ご叱正を賜りますよう会長として心から切望致します。（'82年10月１日記）

高校同窓会だより

高校同窓会長
足　立　剛　一

会員の皆様にはますますご健勝の事とお喜び申し上げます。

平素は同窓会の運営につきまして、会員の皆様には種々御尽力下され感謝いたしております。

私共の同窓会も昭和42年に発足いたしまして今年で15周年を迎えることになりました。現在、会員数も12,000有余人という大きな団体になりました。

又、今年度の総会は創立15周年と宮沢先生の追悼会を兼ね去る10月24日に新宿校舎に於て行い、会員多数の出席のもとに学校関係の諸先生を始め校友会の役員等のご来臨のもとに盛大な記念総会を行いました。

総会の案件につきましては先般お届けいたしました会報でお知らせいたしましたが、今年度は役員改選にあたりその結果皆様のご推薦により引続き私が会長に再選されましたので宜敷くお願いいたします。

尚会則の一部変更につきまして可決されました。会則第14条役員の任期は２カ年とする。学校法人の役員の任期及校友会の役員任期が３カ年でありますので、これに合せるために同窓会の役員任期も３カ年に変更し可決されましたのでご報告いたします。

尚先般の役員会に於て同窓会の組織強化のために役員の役割分担が決まりましたので役員の方々の一層のご協力をお願いいたします。

又、校友会の諸行事につきましては、すでに御紹介して居りますが、同窓会員の皆様方の御参加を特にお願いいたします。

また長年の懸案事項でありました名簿のカードシステム化による整備も整いましたので住所等変更された方々は事務局にご連絡下さるようお願いいたします。

同窓会だより

皆様もすでに御承知の通り今学園は将来計画大綱案及校名変更等種々問題が山積しています。

会員の皆様には学園発展のために建設的なご意見と御協力をお願い申し上げます。

最後に会員の皆様の御健勝とご発展を心からお祈りいたします。

学園将来計画について

専門学校同窓会副会長
南　雲　芳　夫

本学園の将来への展望を明るいものにすべく、日夜御苦心されている当事者の方々、その御心労を推し測るとき、誠に頭の下がる思いを禁じ得ません。学園関係者の期待と、未来を切り拓くことの難しさとの間に位置し重苦しさに耐えながらの毎日であることを、私どもも十二分に承知している次第です。

今日まで、昭和56年10月発表の将来計画案について、種々の意見が出され、様々な検討が加えられ、そして、この案が一応白紙還元された事態を踏まえて、以下に少しく考える所を記してみたいと思います。勿論、述べようとするこの殆んどが、要路にある方々の手で既に俎上に乗せられたものであろうとは存じますが、その際には御容赦を願い上げます。

第一点は校名変更の問題ですが、本質的には変えるべきものではないと思います。若しそれでも考えるとすれば、余程の理由があって然るべきです。従って、この問題が提示されている以上、十分に根拠のことがあっての上の上考えられます。学生集めのために安易に考えられたとすれば、大いに問題です。既に考慮の内とは思いますが、校名変更に伴う諸経費も膨大なものでしょう。

人気の不足に関して校名に責任はありません。まして歴史あるそれですから、慎重すぎる程そうでなければならないでしょう。但し学園の内容と外容を全く一新させるとの断固たる決意が実行の一連であれば考える余地はあります。とにかく、校名変更が目先きだけの気分一新の働きにしかならないようなことは避けるべきです。

第二点は八王子校舎をどうするかの問題です。結論から言えば、外観も内容も真に工学院大学の名にふさわしいものを巨額の費用を投じて作るべきです。膨大な借金による財政上の負担の可能性をその極限まで追求するべきです。私は今や、都心の新宿の狭い場所に、緑も木立もないアスファルトの中に、大学があらねばならないという時代でもないし、社会環境でもないと考えます。

今、大学が従来の姿からの脱皮が求められているとするなら、教育内容の充実も勿論のこと、外的な面にも考慮が十分に払われるべきです。つまり、建物の外観、キャンパス全体の余裕と優雅さ、等々。

直ちに全学部を八王子に移転することが無理なら、百週年を目指す長期計画など、最終的には、全移転を基本としたプランの下に、もう一度検討を是非加えて頂き度い。

第三点は新宿の校地をどう活用するかに関してですが、教育の場が都心にある必要性を考える人々がかなり多数ある筈です。それは大学生では決してありません。大学生は八王子へ行けば良い。都心からの交通手段も問題はないし、地方からの学生の下宿も、新宿より経費がかえって安いという点を指摘すれば十分でしょう。従って、大学以外の現在あるもの、既ち専門学校などは従前通り、この地で運営すべきだと考えます。夜の部などは都心でなければ意味がないことは、くどくど申す必要もありますまい。

第四点は、従来話題にあまり取り上げられていないことですが、大学に直結する附属の中学校、高等学校を増設することを真剣に考える必要があります。東京都内の新設は無理ですが、埼玉県、千葉県はむしろ求められているのではないでしょうか。男子の高校はまだ数が足りないようですし、大学へ直結する中学、高校は大変に魅力のあるものです。これによって、大学の定員の三分の一、或は半分を確保できるとするなら、最終的に学園全体の安定に関連するわけです。ですから、附属の高校、できれば中学校もですが、複数の新設を考える度量があってしかるべきです。更に大学そのものも、女子学生を

同窓会だより

受け入れる用意をすべきです。しかも従前の枠組ででなく、学部の新設を考えても良いのではないでしょうか。短大も可能だと思います。何も大学が男子に限られるものでもありますまい。男子だけの大学こそ、少し異様ではないかとも思われます。経営に寄与する一つの方法と言えます。

以上、いづれも関連する事柄を無理に四点に区別して記しましたが、全体として統一的に考えて頂ければ幸堪です。先にも記したように、上記の考えは、多くのしかも基礎的な諸条件を無視している点があるかも知れませんが、心情を推察願い度いと考える次第です。

十　年　一　昔

経理部長　南　　喜八郎

十年一昔という言葉があるが、校友会の経理を、十年前と現在とを比較してみるのも単に老人の懐古趣味だけではない。

昭和46年度の運用財産は2415万円であったのが、56年度には、535万円と激減した。又運用費は46年度には564万円だったものが、56年度には784万円と増加している。近所のそば屋で当時180円だったそばが現在300円で実に66.6%も値上りしておる等諸物価の値上りを考えた時、運営費の39%増は当然のことではなかろうか。又賛助会費も年１口千円だった46年には95千円の収入だったのが、合併後１口５万円になってから収入０という有様です。

しかし合併前に校友会費２千円を納めていた会員が、合併後は会費は不要ということを知らなかったのか、56年度に３名合計６千円送ってきたので、経理上賛助会費の一部として処理したが、その後１口２千円で１口以上の分納が出来ると、規約が改正されたことは大変結構なことと思う。

又小野塚支部拡充部長が北海道の支部総会で校友会の窮状をうったえ、賛助会員の勧誘をしたところ、早速申込をうけ非常に感激したとのことで、それ以来支部総会には領収書と振替用紙を持参して、相当の成果をあげておる次第です。又本年５月30日総会後の懇親会の席上、小高副会長より詳細なる説明があり多数の賛同を得て当日だけでも96,000円の収入があった。そして10月現在で162万円に達したことは大変喜ばしく又感謝致しております。殊に特筆すべきことは、校友会財産の危機を憂慮された前島会長が、非常なお骨折りで学校当局の理解を得て、56年度新入生より校友会費の徴集の制度を確立していただいた事です。これによって１千万円以上の別途積立金が出来たが、これは卒業年度がこなくては使用出来ません。57年度は運用費950万円の予算の承認を得たとはいえ、無駄な出費は厳につつしむことは勿論ですが、学園に対しては、優秀な学生の表彰、或は学修活動に助成金を贈る等、より一層連携を深め、又賛助会費の一部を支部に還元し、支部活動に少しでもお役にたてて、校友会の益々の発展を期待して理事一同は頑張っておりますので、賛助会員増強には一層のご理解とご協力をお願いいたします。

近況報告

◇ 学校法人 ◇

(1)本学園関係者叙勲について

昭和57年春の叙勲で、本学専門学校小浪博名誉校長が勲四等瑞宝章を、秋の叙勲で横田道夫名誉教授が勲三等瑞宝章を各々受章された。

(2)工学院大学教育振興協力募金状況

９月30日現在

払込件数	293件	（前年同時期　346件）
払込金額	23,880千円	（　〃　22,575千円）

(3)八王子校舎施設整備拡充計画について

八王子校舎施設整備拡充計画の一環としての排水処理管路工事を57年度に完了し、学生部室棟の建設を58年２月頃から着工し、58年度中には排水処理場設備の建設が着工される予定である。

(4)寄付受贈について

大学後援会から３月24日軽井沢学寮、富士吉田セミナー校舎及び学生部に16㎜映写機、カラーテレビ、カメラ等総額933,790円相当の現物寄付、７月及び９月に富士吉田セミナー校舎にＫＳＫ移動映写機、移動式掲示板、放送設備設置工事一式、来客報知装置等総額596,500円相当の現物寄付があった。

その他ビッグモールド㈱から548,000円相当のビデオカセット一式、日本重化学工業㈱から200万円、コンピューターサービス㈱から1,498,000円相当のマイクロコンピューターを２台寄贈された。

(5)寄附行為改訂委員会の設置について

本学園の寄附行為については、第91回(新)評議員会において、その改訂の為の委員会を発足させることになっておったが、これにつき、９月17日開催の第465回理事会において寄附行為改訂委員会を設置し、次期の評議員選出に間に合うよう検討することになった。

寄附行為改訂委員会委員

常務理事	冨子勝久、平川紀一
理　事	遠藤鎮雄、前島為司
監　事	北野　均
主任教授選出評議員	山口章三郎
職務上評議員	玉置久甫
学内選出評議員	洞沢　成、山木芳太郎
校友評議員	内山　太、落合康男
〃	小野塚政雄、森山健次
学識・経験者評議員	吉田辰夫

以上14名

◎創立記念式典のとりやめについて

創立記念日には、昭和42年度以降毎年記念式典を挙行いたしておりましたのをとりやめ、節目ごとの実施にあらため、来たるべき100周年記念式典を盛大に迎える予定です。

なお、徒来この式典の場で行っておりました永年勤続者表彰及び成績優秀学生・生徒に対する奨学金授与については、創立記念日またはその前後に執り行います。

（総務部長　玉置）

◇ 大　　学 ◇

★学園将来計画大綱案（昭和56年10月）に対する教授総会の検討結果について

教授総会内に検討委員会（委員長河合教授）を設け大綱案について諮問していましたが、委員会の答申（９／14付）がだされ、さらに教授総会（Ｓ57.９.27）において検討した結果を10月１日付で、高山理事長、伊藤学園将来計画委員会委員長に対し、次のように申し入れた。

①校地問題については、統一的な理想代替地の入手が困難であり、学園将来計画の早期実現が望まれている現状から判断して、新宿校地の再開発と八王子校舎の拡充は本学園の発展のため妥当なものと考える。

②「都心型」学園の構想については、本学園の将来像として大綱（案）が提唱した「都心型」指向は、その内容が必ずしも明確ではないので、より分かりやすく明らかにする必要性があろう。本学園の将来像は都心地の新宿校舎再開発と郊外地の八王子校舎の拡充を綜合したものであることが望ましい。

③その他具体的問題点として、大綱案に示されている一時的全面移転計画案は各種の問題があるので再検討されるべきである。この他４項目について指摘（紙面上省略）し、早急に学園将来計画大綱案の改訂を申し入れた。

★父母懇談会について

後援会の年間行事として開催されている地方父母懇談会は、今年で３年目を迎えた。この懇談会の主旨は父母

□ 近況報告

にとって関心の深い子弟の教育や就職問題および学園の現況ならびに将来計画などについて説明し、また父母から大学に対するご意見ご希望を承り大学と密接なつながりを築き上げることであり、57年度は５月15日静岡支部を皮切りに15ヵ所で開催した。いずれの会場も熱っぽい真剣な雰囲気で、出席された父母からは大学の事情がよく分ったと大変喜ばれ、大学と家庭の連携をいっそう強固なものにしている。

なお、この懇談会の成果をふまえて、全国的な後援会地方支部の設置を現在進めており、これまですでに８支部が誕生した。

★授業日程変更について

本年度から前期、後期の授業を夏休みを境にして分ける授業日程がとられて実施されている。

昨年度までは夏休み後に前期末試験が行われる日程であったが、①授業終了直後に試験を行った方が効果的であり、また学生も解放された気持で夏休みを活用できる。②就職協定により就職活動が10月から開始されるので４年生にとっては９月を有効な準備期とすることができるなどの理由で学生の合意も得て本年度から実施することになったものである。

この変更により、本年度は、第１部、第２部ともに一斉に入学式を４月１日に早め、また卒業式は３月19日（従来は３／25）に変更した。

★工学院大学研究発表講演会について

本学園創立記念日に開催していた、研究発表講演会は、今年で第25回目を迎え10月31日に行われた。研究発表講演件数は62件で専門別では機械関係13件、化学９件、電気・電子28件、建築12件で、外に、本学井田教授の「超ＬＳＩ製造技術」と東大生産技術研究所早野教授の「環境保全と化学技術」についての特別講演もあり盛会に終った。聴講者326名。特に卒業生、在学生の聴講が多く、定着していることを嬉しく思っている。

★就職状況について

今年の就職状況は、求人の早期化にともない（就職協定では10月より会社訪問、11月より入社試験開始）学生の情報収集活動も早期化し、７月頃からＯＢとの接触等で企業研究のための行動がとられ、就職難もどこ吹く風で、１人に数社が群がる売り手市場で、理工系の人気は相変わらずだが、ことにコンピューターがらみの求人が集中しているが、前年と大きな変動はない。11月中旬で、すでにほとんどの学生の採用が決まり好結果に結びついているようである。

このことは、ＯＢ諸兄が産業界で全国的スケールのご活躍があり、そのことにより、本学が各方面から高く評価いただいているからであります。

ＯＢ諸兄におかれましては、今後とも増々のご活躍と後輩に対するご指導ご鞭撻をお願いいたします。

★入学から卒業率までの実態について

卒論に着手したからと云って、卒論の審査に必ずしも合格するわけではない。また卒論に合格したが１・２科目の単位数が不足で、みすみす卒業延期となるケースも珍しくないが、ここで「卒業率」についてふれてみたい。

大学の入学年度別卒業者率―修業年限４年大学のみ―

区分	昭和57年度卒業者数	最低修業年数卒業率（Ｓ53年度入学者）	１年超過（52年〃）	２年超過（51年〃）	３年超過（50年〃）	４年以上（49年以前）	その他
国立	71,306名	83.28%	11.79%	2.53%	0.74%	0.48%	1.14%
公立	9,084名	87.29%	9.14%	1.93%	0.53%	0.44%	0.63%
私立	290,194名	85.96%	9.67%	1.95%	0.53%	0.26%	1.60%
合計	370,584名	85.48%	10.07%	2.04%	0.57%	0.31%	1.48%
本学	1,389名	73.72%	19.15%	4.31%	1.58%	1.22%	

▨ 近況報告 ▨

昭和57年３月卒業者の入学時の学生（53年４月入学者）がストレート（４年間）で卒業した者の率は第１部約70%で第２部は24%、留年となって４年以上在籍する者は第１部19%、第２部43%、中途退学者等は第１部10%、第２部33%となっている。本学は厳しいようであるが、工科系の他大学の様子も、本学と似て共通の傾向だと聞いている。

「表１」は、文部省が実施した昭和57年度学校基本調査の結果より抜粋し、卒業率に直しストレートで卒業した学生と、留年した学生の比重を参考に示したものである。

（教務部長　宮嶋　堯　　教務課長　高橋正之）

◇ 高等学校 ◇

本高校も順調に発展し、私学教育としての独自の教育方針のもと、更に教育施設の充実、生徒の資質の向上を計るべく、教職員一同努力を重ねております。

近時、都立高校の増設により、都立に吸収される生徒も多くなりますので、私学といたしましてはこれに対応する為にも特徴のある教育を行わなければなりません。大学を希望する生徒に対しては進学率を高め、就職を希望する生徒にはよりよい企業に就職出来る様努力する事がまずなすべき事と考え全学をあげて取り組んでいる次第です。

昭和57年度も２学期のなかばを過ぎようとしております。４月には新入生のオリエンテーションが富士スバルランドの国民宿舎を利用して、一泊二日の日程で実施され、高校生としての基本的な心構えについて十分な指導が行なわれました。

４月28日強歩大会が高尾山から小仏峠、景信山を経て小仏関所跡までのコースで行なわれ、小鳥の声、春の花を楽しみながら全生徒が元気よく春の一日の行事を終了しました。

５月に入りますと３年生に対しては早くも就職指導、進学指導行事があり、６つの企業の人事担当をまねいての生徒への講話、本大学の先生方による大学学科説明会が行なわれ話を聞く生徒の表情も真剣でした。

７月には２年生の修学旅行が北海道の見学を目的として行なわれ有意義に終了しました。

10月に入り、学校行事を飾る学院祭、体育祭と秋の行事も順調に消化し、灯火親しむの候と共に、生徒は勉学に打ちこむ季節に入ります。

高校の近況報告は以上にとどめまして宮沢喜八先生の訃報をお知らせ申上げます。

57年４月２日、宮沢喜八先生が病の為、急逝されました。享年54歳、宮沢先生は工学院大学機械工学科をご卒業後、昭和25年本校機械科教諭として奉職され、本年まで孜々として職務に精励されました。特に、就職指導係主任と同窓会（校友会）係を担当され、本校の就職が常に好成績を挙げ得たのも一重に宮沢先生のご指導によるものでした。

又同窓会（校友会）の係として常に卒業生との連絡を緊密に保たれ、名簿の作製、会の運営等、宮沢先生のお力による所、多大なものがありました。

ご葬儀は菩提寺の本立院でしめやかに行なわれ、多数の教職員、卒業生参列のもと野辺の送りを、愛惜の涙と共に済ませました。

まだまだこれからというご年齢ですが唯々残念でなりません。御冥福を心からお祈り申上げて皆様方にご報告する次第です。

以上で高校の近況報告を終らせていただきますが、校友会の益々の発展と会員諸兄の御健康を祈り上げます。

（高校　山下慶人）

◇ 専門学校 ◇

○入学式

４月10日、昼間部入学式、入学者356名。４月12日、夜間部春学期入学式、入学者本科271名、研究科43名。10月12日、夜間部秋学期入学式、入学者本科32名、研究科34名。

○学生指導研修会

４月18日（日）、昼間部研修会。４月25日（日）、夜間部研修会。昨年秋についで２度目の行事でした。ほとんど全員の教職員講師の参加を得て、パネル・ディスカッション形式により、より良い学生指導の方法を探りました。

○運動会

５月16日（日）、本学八王子グランドで挙行。恒例の行事ですが、今年はじめて昼間部学生が、企画、準備、実行等に全面的に参加し、史上最も盛大な運動会になりま

近況報告

した。

○高校―専門学校連絡協議会

６月１日、第１回連絡協議会を持ちました。同じ学園内の兄弟校として、連携を一層強化するため、昨年10月の準備会合意により設けられたもので、今後必要に応じ随時行うことになっております。

○父母会総会

６月27日(日)、出席父母177名、昼間部在学生630名の凡そ28%余の出席率に、ご父母の熱意がうかがえます。成績、就職、生活等について、担任教員と個別に相談していただきました。

○電卓検定試験

７月４日、全国工業専門学校協会および財団法人専修学校教育振興会主催の電卓技能検定試験が行われました。本校の受験者、合格者は次の通りです。

検定級別	受験者	合格者	合格率
２級	11名	11名	100%
１級Ｂ類	11	9	82
１級Ａ類	32	17	53
特級ｂ類	4	3	75
特級ｃ類	4	2	50
合　計	62	42	68

○卒業式

10月３日、夜間部第180回卒業式、建築科研究科第16回卒業式、卒業生本科78名、研究科36名。

○57年度求人、求職状況（10月16日現在）

		昼間部	夜間部	合　計
求　人	会社数	679	748	1,427社
	人　数	1,313	1,337	2,650名
求　職	希望者	208	99	307名
	内定者	24	17	41名

求人社数は前年より多いが、１社当りの採用人数は、前年に比べ少い。企業側は広範囲に求人し少数精鋭を採用する方針のようです。

また、建設業よりの求人が前年度比約２割減少しているのが気になります。

○58年度入学願書受付

昼間部推薦入学願書受付が、昨年より１ヶ月早めて10月１日から開始、11月30日締切ります。推薦入試(面接)は、11月４日と12月４日の２回行います。

昼間部一般入学は、願書受付一次１月17日～２月19日、二次３月１日～３月19日。入試一次２月25日、二次３月25日。

夜間部春学期の入学願書受付は１月17日～３月31日、入試は書類選考です。

⊙小浪名誉校長叙勲

小浪博先生には、永年にわたる工業技術教育に尽された業績に対し、また全国専修学校各種学校総連合会の組織化と振興に尽力された功労に対し、４月29日付をもって、勲四等瑞宝章を授与されました。

（校務長　安原　豊）

□校友会だより

総務担当副会長　**小高　鎮夫**

去る５月30日の総会にて、〝評議員役員の任期変更〟と〝賛助会員費〟についてそれぞれ承認された。役員の任期については、「この法人の任期は、３年とし、３年毎にその任期満了の日の属する３月中に選任し、就任は４月１日とし、任期はその日から起算するものとする」

この事は、校友会役員の活動期間を現行より一年長くする事で、各役員の校友会活動の内容充実を計る。又学園の評議員の任期と同一にする事で、学園に対する支援態勢の強化を計る事が大きな目的であります。そして学園の評議員の選出については、校友会はその予定者名簿を１月中に提出する必要があるため、改選の時期については、各同窓会の対応を考慮し、前年の３月に改選する様提案された。これにより各同窓会内においてもそれぞれの役員等の改選規定をあらかじめ検討して置く事が必要となって来ております。

次の賛助会費については、前年総会で承認されて、その徴収がすでに開始されていますが、その規定について改めて今回提案された。

賛助会員に関する規定（前回討議分も含む）

近況報告

1. 次の賛助会員費を納入したものを賛助会員と称する。
2. 賛助会員費は、１口2,000以上とし、１口以上を毎年納入するものとする。但し、25口（５万円）以上、またはこれに相当する物品を一時に納入した場合は、以後の納入を要しない。
3. 納入された賛助会費の30%は、交付金として、納入者の所属する支部へ交付する。
4. 交付金は、その明細を、年１回支部長に通知する。
5. 交付金は、必要に応じ、支部長の請求により交付する。
6. 納入された賛助会員費（交付金相当額を除く）は積立てて、目的を定め、理事会の承認を得て使用する。
7. 賛助会員費の徴収は、経理部で取扱う。

この事は、賛助会費徴収により、支部への交付金制度が確立され、支部活動の活発化が期待される事と、納入された会費は一般会計に組入れて、支出されるのでなく、目的を定めて使用する事にした事であります。それは例えば、校友会館又は校友会ホール建設への基金、校友会施設への援助等が想定されます。なお10月15日現在118名、1,636千円の入金がありました事を御報告させて頂きます。

去る９月19日に支部長会議が開催され、議長・副議長が選任され、続いて全国を７ブロックに分ける支部のブロック化が提案され共に承認を得ました。これで支部の組織化の基礎が出来たわけで、全国78支部の活動がより活性化される事が期待されます。ブロックについての内容は、支部連絡委員会においてこれから具体的に話し合われる事になりますが、特にブロック内の会員の交流と、７ブロックと本部との連けいがまず重要なポイントとなると思います。

その他の活動報告と致しましては、○学生表彰の実施（総会当日）、○学園のコンピュータ利用による卒業生情報システムの確立と工学院大学校友会々員名簿管理委員会（案）発足の準備、○大学校名変更検討に対する校友評議員の意見書提出と校名変更に関する校友会代表者会議開催であります。この校名問題についての経過は去る３月５日、学園側より「東京工科大学」と校名変更の意向が伝えられ、３月15日、校友評議員として〝校名変更より学園内容充実が先である〟事と〝校名変更のための評議員会開催の要望〟を行ない、続いて５月９日校友会代表者会議では38名出席中、東京工科大学に賛成12名、東京工科大学以外の校名で適当な時期に変更することに賛成９名、校名変更反対16名、白票１であり、この結果は学園の理事長宛に提出してありますが、現在の所は具体的な進展は見ておりません。

□支部だより

支部拡充部長　**小野塚政雄**

57年度支部長会議を去る９月19日新宿校舎で開催され遠隔地の皆様にも多数ご出席戴きありがとうございました。

(1)56年９月のアンケートの結果報告

イ、支部総会の開催について

毎年行うが　　13支部

随時　〃　　29支部

ロ、支部内で支部会費徴収の有無

年間　5,000円……１支部

2,000円……５　〃

1,500円……１　〃

1,000円……２　〃

500円……１　〃

その他　　３　〃

ハ、校友会本部への要望事項

通信費等の援助。本部理事会の情報が欲しい。

名簿の整備。新会員の住所を知りたい等。

(2)57年４月の校友会報で発表後の各支部の活動報告

総会を開催した支部は、横浜。石川県。広島県。三重県。相模。大阪。京滋。川崎。武蔵野。山形県。宮城県。兵庫県。杉並。そして和歌山支部が設立されました。

その外、拡充部員が九州地区を訪問し、宮崎。鹿児島。熊本。長崎。佐賀。福岡。大分。各県の支部長さんと面接し、学園と校友会等の現況報告をし今後の活動をお願いしました。

(3)広川清次殿（新潟県支部相談役　Ａ電60卒）は57年６月26日ご逝去されました。謹んで御哀悼申し上げます。

昭和58年度大学入試日程決まる

次年度入試要項については、下表のとおり決定した。昨年度に比べて変更した主な点は、指定校推薦入学について①学ぶ意欲のある学生を確保する観点から、推薦人数を1高校当り2名から3・4名以内とした②推薦基準の評定値を入学実績にもとづき各高校別に定めることにした③英・数・理の三教科平均値の条件を廃止した。この制度が定着すれば幸甚と思っている。その他の一般入試については前年とほとんど変りはない。

昭和58年度　一般入試日程等

入学試験日程

部	学科	定員	出願期間	試験日	合格発表日	入学手続締切日 第1段階	入学手続締切日 第2段階
第1部	電気工学科	90名	昭和58年 1月7日(金)～ 1月31日(月) 郵送・必着	2月7日(月)	2月17日(木)	2月24日(木) 郵送・消印有効	3月16日(水) 郵送・消印有効
	建築学科	150名					
	機械系学科 (機械工学科) (生産機械工学科)	180名		2月8日(火)			
	工業化学科	80名					
	化学工学科	50名					
	電子工学科 (電子工学コース) (情報工学コース)	90名		2月9日(水)			
第2部	機械工学科	120名	昭和58年 1月7日(金)～ 2月14日(月) 郵送・必着	2月22日(火)	3月2日(水)	3月9日(水) 郵送・消印有効	3月16日(水) 郵送・消印有効
	工業化学科 (工業化学コース) (化学工学コース)	90名					
	電気工学科 (電気工学コース) (電子・情報工学コース)	110名					
	建築学科	110名					

入学試験科目とその時間・配点

部	教科	科目	時間	配点
第1部 第2部	外国語	〔英語B〕	70分	100点
	数学	〔数学Ⅰ・数学ⅡB・数学Ⅲ〕（選択はできない）	90分	100点
	理科	〔物理Ⅰ・物理Ⅱ〕〔化学Ⅰ・化学Ⅱ〕のいずれかを選択（出願時に届け出る）	70分	100点

試験場　本学新宿校舎　　受験料　20,000円

昭和57年度支部長会議報告

総務部長　落合康男

今年度の支部長会議の報告をする前に、これまでの経過を箇条書で記し、参考に供したい。

1）昭和55年度の支部長会議で、支部長会議の位置づけが提案され、これを検討するため、支部問題委員会が発足した。

2）昭和56年度の総会で、支部長会議が定款施行細則中に位置づけられた。（その内容は、支部に関する諸問題の審議、理事会からの諮問、及び理事会への助言、等）

3）昭和56年度の支部長会議で、①支部長会議の所管は総務部とし、支部拡充部が協力する。②支部問題委員会は、支部長会議の中の委員会とし、その事務は総務部で行う。

等が決定した。

さて、本年度の支部長会議は、去る9月19日（日）12時から、母校新館第1会議室で開催された。

来賓として、大学より伊藤学長、専門学校の鈴木校長、高等学校長代理として宮越教務主任の各先生の来臨を得て、宮城、山形、福島、新潟、福井、静岡、三重、京都、大阪、兵庫、山口、鹿児島等、遠方の各支部を始め31の支部から支部長、副支部長が出席され、本部役員を加えて57名が参集した。

吉屋支部長（静岡中央）の司会で、先ず物故者の冥福を祈って黙とうし、病後静養中の前島会長にかわって、星宜副会長が開会の挨拶を行った。

次に、伊藤学長が挨拶をされ、学園の現状、学園将来計画、大学名変更等につき説明をされた。鈴木、宮越両先生からも、それぞれ来賓挨拶があった。

続いて、次第にしたがい次の様に進行した。

1.　報告事項

1）校友会の現状について　小高副会長

2）支部問題委員会報告　落合総務部長

3）支部拡充部の活動、現況報告　小野塚支部拡充部長

4）90周年募金、名簿電算化報告　吉田事務局長

2.　議長、副議長選出

議長に樋口副支部長（中野）、副議長に岡本支部長（兵庫）、高野泰氏（新宿）が選出された。

3.　議事

1）支部長会議の運営について　落合総務部長

2）支部のブロック化について　小高副会長

会議の中心である議事の1）では、支部長会議の議長、副議長（2名）の任期を本部役員と同じにし、本日の議長、副議長がそのまま就任した外、支部問題委員会委員が、あらためて承認され、2）では、詳細は今後の検討にまつが、支部組織をブロック化することが決定した。これらによって、支部の自主化、活性化は、さらに一歩進んだと言える。

次に、来る11月27日開催の第5回全国大会（京都大会）につき、石川委員長（京滋支部長）、落合、小野塚両副委員長より、それぞれ協力の依頼がなされ、質疑に入った。

まず、庭野支部長（大阪）から、①90周年募金の総括、②学園将来計画に伴う八王子移転の対応、③本部役員改選について、④校友会名簿作成について、それぞれ貴重な意見が述べられ、本部の各部門で検討することになり、又、伊藤真治氏（千葉）からは、大学名変更につき出問があり、伊藤学長から説明があった。

内山副会長の閉会の挨拶で会議を終了。会場を3階の食堂に移して、鈴木副支部長（川崎）のユニークな司会で、なごやかな雰囲気の中に、本年度の支部長会議は、つつがなく終了した。

工学院大学校友会支部一覧表

（支部範囲、事務所所在地は校友会へ問合せ下さい）昭和57年9月19日現在

No.	支部名	支部長氏名
1	千代田支部	岸川　允
2	中央支部	千代田　節雄
3	港支部	加登　数太郎
4	新宿支部	久保　政三
5	文京支部	鈴木　貞次
6	台東支部	副支部長　南　喜八郎
7	墨田支部	小出　虎男
8	江東支部	篠原　梅吉
9	南支部	長谷川　末松
10	世田谷支部	法島　鎬次
11	渋谷支部	小林　成一
12	中野支部	支部長代理　樋口利一
13	杉並支部	支部長代理　会田惣太郎
14	豊島支部	
15	板橋支部	小野塚　政雄
16	練馬支部	八木　平八郎
17	北支部	鈴木　基泰
18	荒川支部	荻原　弘
19	足立支部	荻野　栄起
20	葛飾支部	福原　博
21	江戸川支部	
22	武蔵野支部	松井　正長
23	田無支部	小笠原　松雄
24	多摩川支部	戸部　英瑞
25	八南支部	菊池　誠
26	多摩支部	小倉　武
27	川崎支部	太田　定吉
28	横浜支部	
29	湘南支部	久保田　伴治
30	相模支部	清水　利治
31	小田原支部	支部長代理　隅元武彦
32	埼玉県南支部	新関　安生
33	埼玉県中央支部	相良　栄一
34	埼玉県西支部	
35	千葉県支部	島田　金次
36	茨城県支部	後藤　正春
37	栃木県支部	阿久津　利
38	群馬県支部	中島　治男
39	長野県支部	金子　貞治
40	山梨県支部	市川　光雄
41	新潟県支部	谷口　宏
42	静岡県東支部	鈴木　正雄
43	静岡県中央支部	古屋　留三
44	愛知県支部	畑中　康秀
45	岐阜県支部	松原　浩一
46	三重県支部	強力　辰夫
47	京滋支部	石川　太一
48	大阪支部	庭野　七郎
49	和歌山支部	高木　清英
50	兵庫県支部	岡本　耕一
51	鳥取県支部	石黒　松雄
52	島根県支部	白河　昭三
53	岡山県支部	安原　耕平
54	広島県支部	舛井　寛一
55	山口県支部	重村　伝平
56	香川県支部	大西　要
57	徳島県支部	和田　正隆
58	高知県支部	三輪　伸太郎
59	愛媛県支部	鈴木　金次郎
60	福岡県支部	関野　健次
61	佐賀県支部	石井　寿紀
62	長崎県支部	川崎　太一
63	熊本県支部	吉永　邦雄
64	大分県支部	藤井　一
65	宮崎県支部	片岡　好之助
66	鹿児島県支部	竹下　厳
67	沖縄県支部	中村　朝喜
68	福井県支部	干田　誠一
69	石川県支部	上田　啓二
70	富山県支部	寺井　猛
71	福島県支部	菊地　忠雄
72	宮城県支部	西沢　忠志
73	山形県支部	細谷　繁雄
74	秋田県支部	諸沢　忠男
75	岩手県支部	鈴木　綱五郎
76	青森県支部	木村　健
77	北海道支部	今野　正治
78	東京工学院大学台湾校友会	会長　周　詩　傑

職域支部（仮称）

1	清水建設	高橋　賢之助

信頼性品質管理について

中野善衛

昨年10月私は約28年余り勤務した公務員生活に別れを告げ、民間会社に就職しました。公立学校教員2年、官庁約26年半と50才で定年に達する迄の間、所謂「親方日の丸」と云われる公務員生活を送ったわけです。その中で整備修理業務5年間も含めますと約25年間信頼性品質管理業務に従事した事と成ります。整備業務は保全管理と言う事で信頼性管理に含められると思います。この間、航空機部品の品質管理、航空機製造工程の品質管理、エンジン及びエンジン部品製造工程の品質管理、電子通信機器の品質管理、誘導装置及び航空機部品の環境試験等に従事して参りました。これらの仕事は所謂フロアーインスペクターと言われる様な全く実務と称するもので、工場の中の現場で部品の検査や試験を為ると言ったもので、理論も有るには有りますが、多くは定められた手順に従って検査を実施する仕事です。此等に対して理論付けを行ない、この理論に基づいて更に実務を発展させる為に六十の手習いですが、これから勉強して行きたいと思って居ります。先生方の御指導をお願い申し上げます。官に於ける品質管理は何は扨置いても品質の良い物を作れと言うのが至上目標で、費用の面、採算の面は余り強調されず、信頼性安全性が際立って強調されて居ります。この点、会社になりますと勿論品質第一ですが品質一定の物を如何に安く作るかと言う経済性が大変強調されて参ります。今まで携って来た業務は官であれ民であれ米国規格に準拠した方法で行われて居る物もあり、表向きは日本の規格に成って居ても実際の内容は米国規格の翻訳である場合も有る様です。これは種々其の業務上の事情も有ると思いますが、これからは日本独自の規格を使って行く可きではないかと思って居ります。若し是が出来ない場合には、少くとも米国規格の定められた事項のみでなく、此の規格の定められた根拠なり規定値の算出方法等を明確に為る必要が有ると思います。

（昭和50年　電気専攻科卒）

工学院大学高等学校

昭和58年度入学考査案内

本高校におきましては下記日程により、昭和58年度入学考査を実施いたしますので校友各位におかれましてはよりよい生徒が本校に入学いたします様、ご援助、ご協力を賜わりたくご案内申上げます。

○募集人員

工業に関する学科　機械科50名、電気科50名、工業化学科50名（志願者率予想約2.5倍）

普通科　200名（志願者率予想約4.5倍）

○願書受付　1月25日（火）より2月15日（火）まで

考査日

2月18日（金）

考査科目

国語・数学・英語及び面接

合格発表

2月20日（日）午後1時より

入学手続

2月20日（日）より2月22日（火）まで。

但公立高校受験者は延納願を提出すれば、公立高校発表の翌日まで入学金その他の延納を認める。

参　考

(1)　57年度入学時納入諸経費合計 296,500円

授業料等月額合計　22,500円

（4期分納）

(2)　入試についてのお問合せは　電話　0426-22-9293

内線　363　の大塚（入試相談担当）まで。

かけあし一年のなげき

広報部長　榎　本　忠　良

とにかく日がたつのが早すぎる、もう今年も10ヶ月も走り去ってあと僅か2ヶ月となってしまった。

此の10ヶ月をふり返ると、会議・会議の続くなか会社のなかをかけずり廻り、北海道から九州迄の各地に31回も出張しているし、ゴルフも32回で、それでも今年は例年に比べて大部少ないが、土曜に集中しているためか生活がパターン化した感じとなっている。

出張にしても、友達に笑われることが多いが、ほとんど、2日か3日のかけ足で、仕事だけの出張で3日の場合は帰りは会社の事務所に戻ることが多い、それも山積の書類を片づけるためで、他の人が聞いたらそれも笑い話のタネにしかならない。

以前はもう少し余裕があったのに、いつ頃からこんなになったのかとふり返ってみるのがやっとぐらいの今日この頃である。

ゴルフは39年に始めて、47年にメンバーになり年数は長いが、オフシャルは未だ21。但し調子の良かった数年前はプライベートは10迄行って少しく自信をつけたこともあったが最近は一寸自信がグラツイタ感じ。囲碁も初段に挑戦し、社内の同クラスの仲間がつぎつぎと初段になり次は自分がと思ったが、今は手が読めなくなり打つ機会も少なく下がり気味、それでも何とか初段をと毎月「囲碁クラブ」など買っている。

どうしてこうも忙がしいのかと考えてみるに、やはり、自分のことは棚にあげて不景気のせいだとつくづく思う。

数年前はイランなどで仕事しても、シビル込みのガスタービンを充分な利益で仕上げたし、シンガポールなども良い市場だったが、最近は競争が激しく、それも日本勢の争いで値段は下がる一方で、反面中近東などでは、サイトの事情やユーザーの要求が厳しくなり思わぬ出費から採算割れのケースが再三出るため油断もスキも出来ず、契約その他神経をつかうことが多い、国内でもそれが移って来て採算をとることが難かしくなって来た。

その上一つトラブルが起るとその対策に手がかかり、2倍3倍の手間がかかることとなってまたまたかけずり廻ることとなる。

それでも仕事は30年のキャリヤーで何とかやりぬくにしても、最近は好きな酒と喰い道楽から、やれ血圧が高いの、コレステロールが多い、血糖が問題だと次々と医者から文句を言われるのには閉口する。

薬をのみ、体重を落そうと努力しているがこれは一寸やそっとのことでは何とも成果が上がらない。適度な運動と規則正しい食生活と、言はれることは良く判るが。

仕事が難航すると、何かと飲む機会が増えるし、立場上人とのつきあいも非常に多くて会食の機会が多いだけでなく、ついついメートルが上がり調子づくと下手なカラオケで更にピッチが上がると言った具合。

こんな日常のなか合併問題で交渉中の難かしい時期に同窓会に引き出され、現在は常任理事となり法人の評議員となり、何かと校友会に顔を出すことが多くなった。

校友会は同窓生の集まりで、親睦団体であり本来なら校友の情報交換その他気軽に顔を出せる所のはずが、何と我が校友会は前号でも運営について一文を書いたが、何とも難かしい所で、年中やたらと議論が多いし、何をやるにしてもアッチコッチから文句が出て来て、顔を出して校友と親睦どころの話でなく、やたらと忙がしく、仕事をさせられている始末で、此処でも小生の血圧を上げることとなっている。ただ悪いことだけでなく多くの方と接しいろいろなことを知ることが出来るし今年は来年の卒業生を勤務生に迎え入れるのに一役買わせて貰えたなどメリットも多い。

とにかくアッと言う間にすぎて行く日々にあきれながらも、何か小さな事でも新しいことをと心がけている毎日である。

日立プラント建設電機営業所長

昭和56・57年度役員役務分担表

（五十音順）

◉会　長　前島　為司（T15A建74）
◉副会長　小高　鎮夫（S34G建2）（総務部担当）
〃　富所　良二（S27G工化）（経理部担当）
〃　森山　健次（S29F建3）（広報部担当）
〃　長坂　舜二（S27G機1）（編集部担当）
〃　内山　太（S36G電4）（事業部担当）
〃　足立　剛一（S25E化1）（支部拡充部担当）
◉監　事　相沢　包吉（S8B造84）
〃　北野　均（S6B採84）
〃　戸部　英瑞（S3B土78）
◉理　事　（但し○印は常任理事）

総務部
部長　○落合　康男（S22C工化1）
石成　和男（S25E電1）
伊藤　真治（T13A土69）
高橋　孝治（S38D電142）
田中　博国（S29G機3）
松山　守也（S34G電2）
間宮富士雄（S23C化工2）

経理部
部長　○南　喜八郎（S4B電79）
伊藤　汎（S37G機11）
茅野　昭（S40G化工4）
佐合　道也（S25E普2）
若月　昭司（S27D建119）

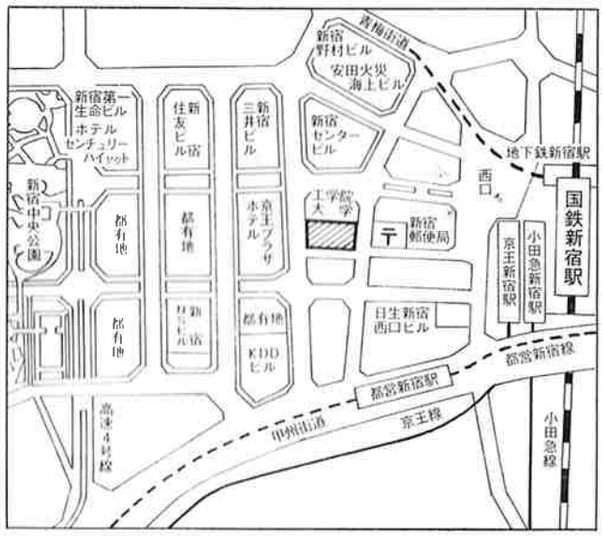
広報部
部長　○榎本　忠良（S27F電1）
金尾　武彦（S14B建99）
角田　孝助（T14A電72）
戸村　勇（S29E建6）
中島　孝明（S40D建146）
平瓜　茂穂（S30G工化4）
武笠　忠（S31G機5）

編集部
部長　○南雲　芳夫（S31D建127）
池田　和夫（S29G工化3）
伊藤　喜章（S25E機8）
木村　幸弘（S39G建7）
後藤弘太郎（S29G機3）
佐藤　晃市（S39G電子3）
宮沢　正義（S38D電141）

事業部
部長　○篠原　梅吉（S6B建83）
菊地　誠（S17B土105）
酒井　史生（S43D機151）
丹羽　宏之（S29G工化3）
蓮池　嘉和（S37G電子1）
八木平八郎（S31G機5）
吉岡　暘一（S30E機7）

支部拡充部
部長　○小野塚政雄（S11B機93）
副部長　宮本　陸一（S35D化136）
愛川　高朗（S40G建8）
磯田　昌男（S38G化工2）
津久井雄司（S25C機4）
寺島　敬二（S35D金属135）
錦見　彰（S32E建9）
横山　修一（S43G電子11）

新宿副都心と工学院大学新宿校舎（昭和57年10月現在）



◇ 編 集 後 記 ◇

第103号会報をお届けします。毎年2回発行(春、秋)が決り、4月発行の方は総会通知を兼ね全会員に配るため35,000部印刷するが、10月発行分は郵送料が嵩むために各同窓会500部づつ3,000部、本部用、支部用を合せ500部〜1,000部と決定している。

さて原稿依頼も終って1月後の締切日になっても思うように原稿が集らないのが最大の悩みである。但し法人、大学、高校、専門学校ともに、お願いした分は確実に原稿が届くし、諸先生方にお願いした分だけは確実に届くことを断って置きたいし感謝申上げる。問題はその他の校友にお願した分なのである。発行予定日（これは何かに制約されて自然に決まる）から逆算して、校正の日、原稿送り込みの日、原稿締切り日、原稿依頼日といずれもぎりぎりの線で決るわけである。それに外部的には印刷所の日程もからんで来るのであり、どこかで遅れると発行日にずれ込むことになる。現実は厳しい条件の中で動いているので、大分きびしいことを書いてしまったが、誰しも銘々の仕事の片手間で、時間をやり繰りしてやっていることで、お互いのことながらつい愚痴をこぼしたくもなるわけである。大事なことは原稿が揃わなければ誌面の割付が決まらないこと、これだけは絶体である。

若し出来得れば、平常からある程度のフリーな立場の原稿のストックがあれば大いに助かるのである。次の「原稿募集要項」により出来るだけ自発的に原稿を送り込んでいただければこれに越したことはない。広報部員の立場から以上のことをお願いしたい。

さてこの会報を如何に有益なものとするか、如何に魅力あるものにするか等については校友皆様のお智恵を是非拝借したいところである。どうぞ皆さんよろしくお願いします。

原　稿　募　集

工学院大学校友会会報は毎年4月と10月の2回発行することになりました。ついては下記により原稿を募集致します。

記

1. 随筆、紀行文、一般向きの論文
2. 各支部の情報
3. 叙勲その他校友会会員、卒業者の情報
4. 提案、その他

以上400字詰原稿用紙使用（横書き）必要に応じ図面、写真等添えること。　　広　報　部

本号では前島会長が目下健康勝れないため、原稿依頼を差控えさしていただいたことだけを申断りしておく。

（角田）

業務
電気機器の設計・検査
開発手法・実験計画法

所属団体
（社）日本技術士会
（社）関西電気管理技術者協会
（社）大阪技術振興協会
地域産業技術協力センター

小沼技術管理事務所

電気管理技術者
電気生産管理技術士
小　沼　三　郎
（昭2電気卒）
校友会大阪支部理事

〒666-01　兵庫県川西市東多田字滝の上3-147
電話（0727）93—0341

日通の全国宅配サービス
ペリカン便

日本通運株式会社
ご用命は、お近くの営業店または取扱店にお願いします。

日通商事　ファミリー ショップ

総合商社としての機能を特約販売店と直結し 共に繁栄を‥

日通商事株式会社
本　　社／東京都千代田区外神田3-12-9　☎253-1111
総合支店／東京・名古屋・大阪・福岡・新潟・仙台・札幌

日通商事は地域社会に密着した総合商社として日頃から生活文化の向上に努力しております。
日通商事ファミリーショップは豊かなくらしづくりに必要なあらゆる情報、商品をとりそろえて地域社会に貢献しております。

世界水準を誇る品質と技術

代表取締役会長
計量士
溝呂木金太郎
(大正10年機械科卒)
代表取締役社長 溝呂木雅之

本社・東京支店

圧力計 温度計

カロリーメータ 液面計

上田工場

熱技術センター

株式会社 長野計器製作所

本社	東京都大田区東馬込1丁目30番4号 〒143 ☎ 03(776) 5311(大代表)
上田工場	長野県上田市大字秋和1150番地 〒386 ☎ 0268(22) 7530(代表)
東京支店	東京都大田区東馬込1丁目30番4号 〒143 ☎ 03(776) 5311(大代表)
大阪支店	大阪市東区北久太郎町2丁目45番地(幸ビル) 〒541 ☎ 06(261) 7291(代表)
名古屋支店	名古屋市中区錦1丁目11番20号(大永ビル) 〒460 ☎ 052(211) 4551(代表)
広島支店	広島市中区橋本町6番11号(縄手ビル) 〒730 ☎ 082(228) 2341(代表)
九州支店	福岡市博多区博多駅前3丁目23番12号(博多光和ビル) 〒812 ☎ 092(472) 1277(代表)
札幌営業所	札幌市中央区南三条西12丁目325番地2(菅野ビル) 〒060 ☎ 011(213) 3145(代表)
仙台営業所	宮城県仙台市一番町1丁目13番20号(村上ビル) 〒980 ☎ 0222(27) 9331(代表)
静岡営業所	静岡県静岡市伝馬町22番地8(三井生命ビル) 〒420 ☎ 0542(53) 4148(代表)
四国出張所	香川県高松市瓦町1丁目3番地12(中央ビル5F) 〒760 ☎ 0878(22) 8550(代表)
富山出張所	富山県富山市八人町9—11(セトビル) 〒930 ☎ 0764(41) 6949(代表)
長崎出張所	長崎県長崎市光町5番20号(重松工業ビル) 〒852 ☎ 0958(62) 5514(代表)
アメリカ駐在事務所	PACIFIC SCIENTIFIC—Industrial Division 3020 N-Hesperian Way, Santa Ana, California, 92706 U.S.A., TEL. (714)558-6964 TELEX. 68-5648
ブラジル連絡事務所	% MITSUI BRASILEIRA. IMPORTAÇÃO E EXPORTAÇÃO LTDA. Avenida Bernardino de Campos, 98 Paraiso Sao Paulo, S.P., BRAZIL TEL 284-3011 (代表)

第三十卷 第二号
昭和五七年十一月一日発行
福井兼 発行人 角田孝功
〒104 東京都中央区銀座一—五—一一
印刷所 弘人船印刷株式会社
電話(552)九七三一
発行所 社団法人 工学院大学校友会
東京都新宿区西新宿一二四一二
電話 〇三(342)二〇六四番
振替東京九一一〇八番
〒一六〇—九一